



CQM(超短期経済予測モデル)

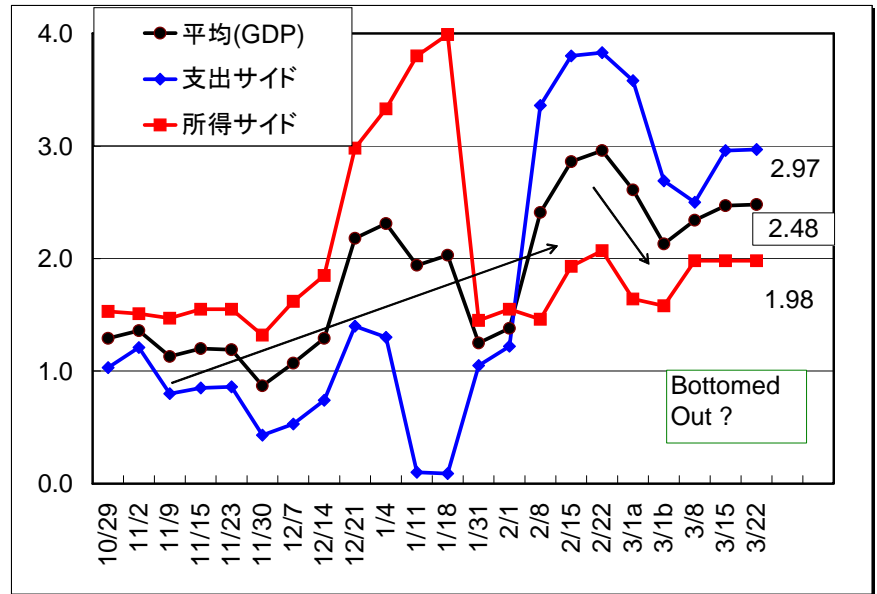
熊坂侑三 (APIR リサーチリーダー, ITエコノミーCEO)  
内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail:kumasaka@iteconomy.com

# 米国経済(週次)予測(2013年3月22日)

## ポイント

▶今週の CQM は 2 月の住宅着工件数のみを更新した。その結果、実質住宅投資の今期 (1 月~3 月) の伸び率が 7.2%から 7.7%に更新され、それが支出サイドの実質 GDP のわずかな上方修正となった (図表)。  
▶連銀は 3 月 20 日の FOMC 声明で固定資本投資の増加を見通しているが、CQM ではその伸び率が前期の 11.2%から今期には-1.0%にまで大幅に低下していると予測する。  
▶その理由は、1 月の耐久財出荷統計を更新した今週の CQM は実質設備・ソフトウェア投資の伸び率が前期の 15.0%から今期には 1.0%にまで大幅に低下すると予想していることにある。  
▶Sequestration の影響が、消費者よりも企業に早くでたものと思われる。連銀は 5 月 1 日の FOMC ミーティングで企業投資の大幅な低下に言及することになるだろう。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率  
2013Q1 (%、前期比年率換算)



## <設備投資の落ち込みを見逃している連銀エコノミスト>

3 月 22 日の CQM は 2 月の住宅着工件数のみを更新した。その結果、今週の CQM は 2013 年 1-3 月期 (2013Q1) の実質 GDP 伸び率を支出サイドでは 2.96%から 2.97%へわずかに上方修正し、所得サイドでは 1.98%と前週と同じになった (図表)。両サイドからの平均実質 GDP 伸び率は 2.47%から 2.48%へと 0.1%上方に修正された。

3 月 19-20 日と FOMC ミーティングが開かれ、20 日に FOMC 声明が発表された。予想通り経済政策の変更はなく、いつものように連銀エコノミスト達の景気の現状が述べられた。FOMC 声明において“Household spending and business fixed investment advanced, and the housing sector has strengthened further.”という景気判断がなされている。しかし、CQM 予測からみて、最も懸念されるのは連銀エコノミスト達の企業の投資への見方である。今週の CQM は実績値として 1 月の耐久財出荷指数を更新しただけであるが、実質固定資本投資の今期 (1 月~3 月) の伸び率が前期の 11.2%から-1.0%にまで低下すると予測している。その主な理由は実質設備・ソフトウェアの今期の伸び率が前期の 15.0%から 1.0%へと大幅に低下する予想されているからである。一方、実質グロス民間国内投資の今期の伸び率は前期の-1.5%から 7.2%にまで大幅に上昇すると予測されている。これは、実質在庫増が前期の\$120 億ドルから\$505 億ドルへと増加が予想されているからである。

すなわち、今期の経済成長率は連銀の言う Moderate な 2%~3%とみてよいだろう。しかし、その経済成長率の少なくとも 1%は在庫増によるものであり、持続的経済成長を考える上で明るい材料ではない。やはり、持続的成長をもたらすには個人消費支出と企業投資の堅調な増加が不可欠である。おそらく、Sequestration の影響が、消費者よりも企業に影響を与えていると思われる。5 月 1 日の FOMC において、連銀は企業投資の低下を懸念することになるだろう。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp) 06-6441-0550